

(5) 講 評

○委員長 それでは、先生方と内容について確認をさせていただきました。

まず、議事(1)につきまして、先に結論から申し上げます。継続ということでぜひ進めていただきたいということでした。

そして、講評、コメントとしましては、全体的な精度向上を目指すということ、あと過大評価の問題は考慮しながらということかと思えますけれども、それをぜひ邁進させていただきたいということです。一方で、たくさん質問が出ましたけれども、伝達先の問題、どういう機関にこの成果を出していくかということも、もう一度精査していただきたいということ、それから、つなぎの重要なデータであるということも含めて、まだ伝達先には十分周知されていない部分があるのではないかという議論もございました。委員で議論していたときに動画を使った周知というものもあるのではないかということが地理分科会で議論されたということをお聞きしましたが、その伝達先、あるいは自治体等に、こういう利活用の方法があるということをお知らせするようことも踏まえてやっていただきたい。

議論はされていなかったのですが、アンケートを取られているので、今後もそういったお声を聞きながら、伝達先や周知の仕方を議論していただきたいと考えております。

それから、定性的な情報を併せて発信してほしいということは地理分科会でも出ていたとのことですが、やはり定量的なところだと十分に使えないという部分もございまずるので、定性的な情報というのも出しつつ、自治体の方にも理解できる情報として伝えていただければという意見がございました。

議事(1)については以上のようなこととなります。

続きまして、議事(2)につきましてですけれども、評価としましては、おおむね目標を達成できたと評価いたしました。課題について丁寧に説明をしていただきました。残された課題があるということで、十分にということではなくて、おおむねという表現になりましたけれども、きちんと課題を認識されていて、先ほどの説明にございましたように、一般研究としてこの課題を解決する方向に持っていく方針ということですので、ぜひそれを今後継続してやっていただきたいと考えます。

以上ですが、議事(1)と議事(2)で、分科会の総合評価にも出ておりますけれども、研究を推進するに当たって、人員の確保、適切な人員配置を今後もお願いしたいということと、

あと、地理院の中では十分ではない部分は、ほかの関連した国の機関等々とぜひ協力をして、その部分を補うようにして進めていっていただきたいというのが委員の意見でございました。

以上のようなことでありますけれども、先生方、補足はありますでしょうか。ウェブ参加の先生方、よろしいでしょうか。

ありがとうございます。それでは、私からの講評は以上とさせていただきます。